

『主を誇る人生の喜び』 コリント人への手紙第二 10章7～18節 2016.7.31(聖日礼拝説教より)

『…主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。』 ミカ 6:8

◆パウロがコリント教会から非難され、陰口を囁かれた時、彼は主にある成熟した大人対応！「キリストにある柔和と寛容(Ⅱコリト 10:1)」で、優しく穏やかにメッセージを伝えた。◆次に彼は、人を正しく評価するよう助言！『あなた方は、うわべだけを見ている(7節)』と。パウロは「背が低く髪は薄く、がに股で鉤鼻…」と酷評されたり、「ひとたび神の言葉を語れば神の栄光に包まれ…」と評されたりもした。私たちは、外見や肩書きで人の良し悪しを簡単に評価し、人の本質的で大切な価値を見失う！先日の神奈川での痛ましい殺傷事件は、人間が人間を勝手に批評した結果ではなかったのか…。全ての人は、神に創られ、愛され、一人ひとりに特別な価値と特別な計画が与えられている。互いに創り主を畏れ、御心を知り、尊敬し合いたい。

◆右足一本以外の手足を失って生まれたレーナ・マリヤさんのうわべは、可哀想な重度障害者と見えたかも…。しかし彼女は、両親に深く愛され、神の愛と自分に対する特別な計画を知り、世界中で神を讃美した！右足で食事や料理、編物にパソコン、ピアノ演奏、お化粧、車の運転までこなし、特別な人生をくださった神への感謝と喜びに溢れていた！どんなタイプの人をも、神の視点で正しく評価することが成熟した大人の第二の知恵！

◆第三に成熟した人は、自分を誇らず主を誇る！「自己推薦をするような人は知恵がない…主に推薦される人こそ受け入れられる(12,18 節)」と。「受け入れられる」とは、「間違いない」の意。自分を誇り、誰かを見下げる人生は愚か！「俺は間違いない！正しい！」ではなく「この人は、間違いないく正しく歩んだ人です」と神に認めてもらえる人生があるという！何をするにも、しないにも、人の目ではなく、神の目を意識したい！

◆アメリカの「チックフィレイ」というフライドチキンのお店は、今、ケッターキーを抜いて全米 No.1。創業者で熱心なクリスチャンのキャセイさんは、創業以来一貫して、礼拝のために日曜定休。そして何もするかもしれないにも、「神と人を愛するとは？」を問う！結果、ケンタッキーの半分以下の店舗で3倍の売り上げ！また惜しみない社会貢献は多くの人を助け、慕われ、喜ばれた。全ては、自分ではなく主の恵みを誇り、神に喜ばれた結果である。

★今週、人の目ではなく、神の目を意識して、何かを成し遂げる力、誰かを助けるチャンスをくださる神を仰ぎつつ、神に認められる日々でありたい！